

＜令和4年度卒業証書授与式＞

校長式辞 ～卒業生に贈る言葉～

ただいま、3年生の皆さん一人一人に卒業証書を手渡しました。最後の最後に、皆さんのマスクをとった顔をまじまじと間近で見ることができて、ささやかな感動を覚えました。あらためまして、卒業おめでとうございます。

本来なら、この晴れの旅立ちの日を、全校合唱や卒業合唱の披露も含めて、在校生やもっと多くの来賓の皆さんとともに盛大にお祝いすべきところ、明日大事な受検を控えていることも考え、昨年度に引き続き大事をとった形で挙行することにしました。

しかし、だからと言って、卒業生のこの3年間で色あせるものでは全くありません。

白翔祭での競技・応援・パネルのそれぞれで発揮してくれたリーダーシップ、合唱音楽祭でのクラス一丸の感動のハーモニー、生徒会活動等の創意工夫ある数々の取組、部活動での躍動感あふれる活躍等は、創立40周年を飾るにふさわしく、理想とするべき先輩の姿を、常に後輩に示してくれました。

この場にはいない1・2年生の分も含め、本当にありがとう。

思い起こせば、皆さんのこの中学校での3年間は、丸々、新型コロナウイルスとの共存と戦いの日々でもありました。新型コロナウイルスに翻弄された3年間とも言えます。人生の最も多感な3年間でこのような状況下であったことが、本当に皆さんの人生にとってプラスだったのかマイナスだったのか。それは、皆さんのこれからの生き方が審判をくだすものだと考えています。

さて、この旅立ちの日にあたり、私は、どんな美辞麗句も、偉人の格言も、有名人の成功体験の話も準備していません。私がこれまで皆さんに訴え続けてきたことをあらためてお話しし、はなむけの言葉とします。

私が皆さんに言い続けてきたことは、常に周囲から自然に「愛され、励まされ、応援されるような人間」たれということです。

もちろんそれは、周囲のご機嫌をとったり、忖度したり、世渡りのうまい処世術を身につけたり、大勢に流されるということとは当然違います。どんなことにも誠実にひたむきに、どんな困難や失敗にもくじけないでチャレンジする真摯な生き方をすれば、必ずや、あなたのことを周囲の人たちは、おのずと、愛し励まし応援してくれるはずで、それが人として幸せな生き方だと思っています。

そのためにも、最も大切なのが『感謝』の心です。これまで支えてくれた人、これから応援してくれる人への『感謝』の気持ちを決して忘れず、教育目標である「人の心を大切に作る」人間として生き続けてください。

このような未曾有な状況下でも、逆風を順風に変える工夫と辛抱強い感染予防に努めた学校生活を送った皆さんは、どの世代にも負けない勇気ある生き方をしてきた誇るべき存在です。そのプライドを胸に、これからの時代を、よりたくましく生きてぬいてほしいと願っています。

さて、ご臨席いただきました保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。本日のこの卒業生の成長した姿とともに、お子様の晴れの日を迎え、感慨もひとしおと推察申し上げます。

ご家族はもとより、我々教職員や全校生徒にとりましても、この山潟中学校で、卒業生のみんなと、楽しいこともつらいことも共に喜怒哀楽を共有できましたこと、生徒の成長する姿を間近で目にできたこと、そして生徒とともに我々自身も成長できたことは、何事にも代え難いかけがえのない至上の喜びでした。

本日をもちまして、3年間お預かりしました大事なお子さまを、完全に家庭にお返しする日となり、正直とても寂しい思いでいっぱいです。たいへん僭越ではありますが、今後とも、私たちが心から愛した子どもたちを、どうか宜しくお願いします。

卒業してからも、皆さんが、幸せな人生を歩むことを心から祈っています。決して、有名人になることや社会的地位や栄誉や富を手にすることが幸せではありません。誰とも比べることのできない、あなただけの幸せや生きがいをつかんでください。たとえ平凡な生き方と言われようと、家族を愛し、隣人を愛し、地域に貢献し、だれにも迷惑をかけずに、黙々と社会を支えながら生きることこそがすばらしい生き方だと考えます。

最後にもう一度約束します。皆さんがひたむきに誠実に前向きに生きている限り、あなた方と巡り合った私たちは、皆さんに、心の中で、ずっとずっとエールを送り続けています。

頑張り、山潟中学校第40回卒業生諸君！

卒業おめでとう。

令和5年3月6日

新潟市立山潟中学校 校長 貝塚敦